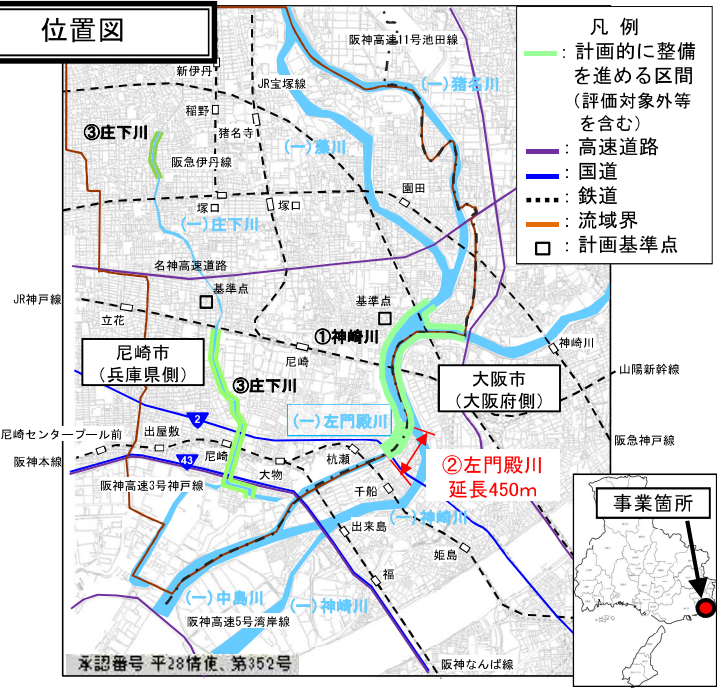


河川事業 一級河川淀川水系神崎川圏域(継続:再評価[第5回])

位置図



事業概要および進捗状況

| 工区 | 事業区間 | 整備内容 | 計画規模 | 今回評価時点 | 前回評価時点 | |
|---------------------------|---------|-----------|------|--------|----------|----------|
| 淀川水系 | ①神崎川 | (未着手) | 1/40 | - | - | |
| | ②左門殿川 | 河床掘削 450m | 1/40 | 事業費 | 9.0億円(-) | 8.0億円(-) |
| | | | | 残事業費 | 7.5億円(-) | 8.0億円(-) |
| | | | | 進捗率 | 16.7%(-) | 0%(-) |
| 完了予定年度 | R6 | R1 | | | | |
| ③庄下川 | (評価対象外) | 1/40 | - | - | | |
| 河川整備計画策定年度(前回評価年度) | | 平成26年度 | 水系計 | 事業費 | 9.0億円(-) | 8.0億円(-) |
| 河川整備計画に位置づけられた全ての事業によるB/C | | 43.0 | | 残事業費 | 7.5億円(-) | 8.0億円(-) |
| | | | | 進捗率 | 16.7%(-) | 0%(-) |
| | | | | 完了予定年度 | R6 | R1 |

事業の目的、必要性・優先性

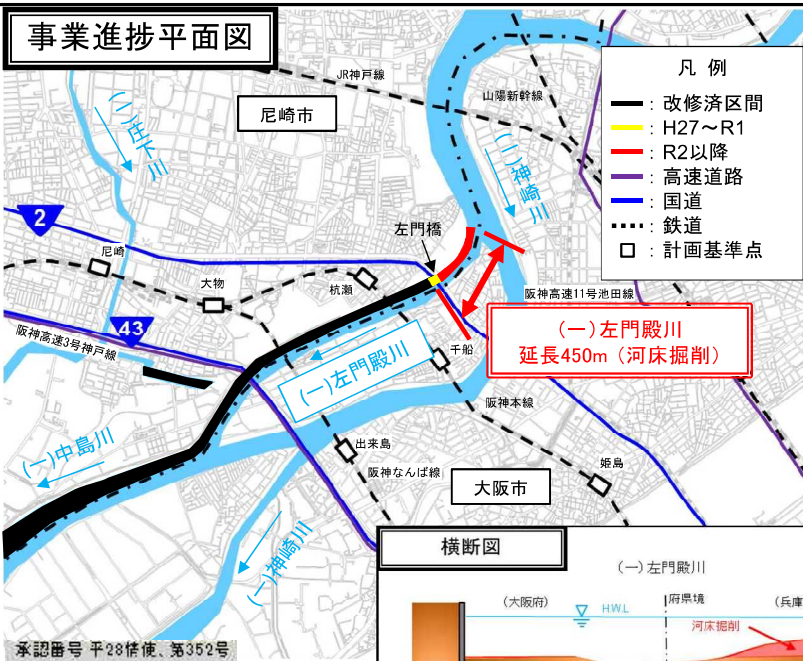
| | |
|------------|--|
| 目的 | 浸水による家屋・人的被害の防止 河川整備計画(H26)に基づく流下能力不足の解消 |
| 必要性 優先性 | ①阪神工業地帯の中核部として、多くの製造業の工場が集積している地域であり、洪水等による浸水が発生した場合には、甚大な被害発生が想定されるため、河川改修が必要である。 ②対岸(左岸側)を管理する大阪府による河床掘削が先行しているため、優先性は高い。 |

再評価の結果

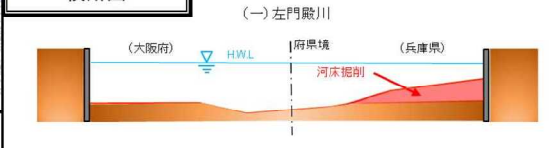
| | |
|--------|---|
| 再評価の結果 | 【継続】 事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、河川整備計画に基づく流下能力不足の解消により、地域住民の安全安心な生活環境を確保するため、継続して事業を実施する必要がある。 |
|--------|---|

【②左門殿川】

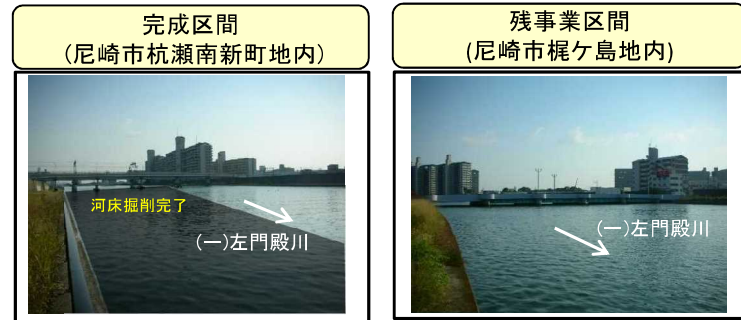
事業進捗平面図



横断面図



現況写真



工程表

| 種別 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|------|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 河床掘削 | 調査 | | | | | 掘削 | | | | |
| | 測量 | 調査 | 調査 | 測量 | 掘削 | 掘削 | 掘削 | 掘削 | 掘削 | 掘削 |

■ 前回計画
■ 実施・計画

進捗状況

| | 事業進捗状況・予定 | 整備効果 |
|------------------------|---|---|
| 全体(H27~R6年度) | 【事業費=9.0億円】 ・延長: 左門殿川450m ・整備概要: 河床掘削 | ・流下能力の向上 (概ね40年に1回の確率で発生する降雨による洪水を安全に流下) |
| 整備計画策定~再評価まで(H27~R1年度) | 【事業費=1.5億円】 ・左門殿川 河床掘削 延長約60m | ・流下能力の向上 |
| 今後予定(R2~R6年度) | 【事業費=7.5億円】 ・左門殿川 河床掘削 延長約390m | ・流下能力の向上 (概ね40年に1回の確率で発生する降雨による洪水を安全に流下) |

再評価の経緯(変更概要)

再評価に至る経緯等(変更概要)
 ①H30年度までは海上の埋立処分場へ搬出していたが、その受入れが終了し、陸上で処分することとなった。これに伴い、今後は、掘削後に残土処分のための前処理(仮置場での土質改良)が必要となる。さらに、発生土の仮置場も限られており、掘削土量が制限されるため、完成予定をR6年度に延伸する。
 ②上記の前処理(土質改良)に費用を要する見込みであることから、事業費を1億円増額する。